

通帳は2通家計をやりくり

いま No.279
子どもたちは
「施設」を築立つ ④

早く進路が決まれば、アルバイトや奨学金の申請、アパート探しなど、今後の準備に時間をかけることができるからだ。

施設の担当職員が、一人暮らしに必要なお金の一覧表を作ってくれた。「結構かかるな……」。貯金だけじゃ足りない。

奨学金を複数の団体に申請するため、作文を書いたり成績表を提出したりした。

施設の先輩の助言で、NPO「エンジェルサポートセンタ

ー」が催す自立支援プログラムに参加した。年に3回。他の施設や里親のもとで暮らす高校生約20人が集まった。他の施設の子と会ったのは初めてだ。

安く簡単にできる調理実習をしたり、お金の使い方やため方を教えてもらった。

やはりお金の話になると、集中して聴いた。施設にいくらか水道代や光熱費、家賃がいくらぐらいか分からない。毎月の収入を想定し、食費が支出の何割

的に家計のやりくりを考えた。

「一人暮らしって、こんなにお金がかかるんだ」

1月にあった最終回では、参加者がみんなの前で決意表明をした。「短大に行きます。保育の勉強をします」。晴れ晴れした顔で、堂々と言えた。

3回全てに出席した特典で、冷蔵庫とスーツをもらった。

施設の子が大学に進む場合、卒園前に100万円の貯金があ

るといいと言われた。アルバイトの貯金と奨学金を合わせ、十分ではないけれど、最初の年は何とかやっていけそうな態勢が整った。

ワンルームの部屋を借りた。冷蔵庫は日々使っている。スーツは施設の卒園式と短大の入学式で着て、今も大事にしまっている。

いま、手元にある預金通帳は2通。1通は学費を管理する。もう1通は日常的に使う。せっかくの奨学金をうっかり使ってしまうないための工夫なのだ。

(大井田ひろみ)

ミカさん(18)が高3の秋。指定校推薦で、短大の夜間部に進むことが決まった。

児童養護施設で暮らす子が推薦入学を選ぶことはよくある。